



くれ

875号
2019年12月24日
郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行



←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！



メールはこちら→

かんぽ不適正から飛び火

事務次官が辞任引責

かんぽ保険の調査結果を吟味して処分する監督庁である総務省のトップ、事務次官が辞任した。

処分される会社である日本郵便副社長に対して、処分内容など、情報提供した事が、国家公務員法が禁じる「信用失墜行為」であると指摘された。事務次官は情報漏えいの事実を認めた。日本郵便副社長とは、旧郵政省の先輩後輩の関係だった事が報じられ、天下りの問題まで浮き彫りと

なった。

会社にとって、都合の良い様に付度してもらおう為に、天下りを受け入れているのだから、関係各庁からの情報提供は、想定内だろう。

都合の悪い情報は、「さくらを見る会」の名簿同様に処分を期待するはずだ。総務省にとって今回の不祥事は重い。公平性が求められる公務員の信頼を揺るがす結果となり、天下りについて総務大臣から苦言が出た。

年内に行政処分

社内調査や顧客対応も終わっておらず、違反や嫌疑件数は倍増した。

金融庁の立ち入り調査は終わっているが、件数や件数だけでなく精査作業は相当な時間が必要だろう。処分として、保険販売など、一部で業務停止命令が出される見込み。

その期間の長さは会社の経営状況を悪化させ、株価に悪影響を与える。

自浄を促す名目で、業務改善命令が出される事は間違いないが、この命令は厄介な問題を孕む。

会社が改善案を提出しても、認められるまで、改善策の提出が続く。

しかし利益至上主義で染まった組織は一筋縄ではいかない。

事務次官が更迭された事で、今後は付度も期待できない。

経営陣は隠蔽体質を非難したが、知らなかったは通用しない。

横領などの重大事案は、管理者から直接、社長にメール報告を義務付けければ済む。

報告しない管理者は、共犯もしくは隠蔽として、懲戒解雇（諭旨免職なし）と通達すれば、情報は入る。報告の遅れも発生時刻

からの経過時間で、解雇、停職や降格など、厳しい処分を明記すれば今の情報が入る。

しかし、都合の悪い情報がない方が、経営陣には都合が良く、対策はしない。

副社長が相手の立場を知っていないが、不正に情報を聞き出すほど、コンプライアンスの意識がない経営者が今回の事例を表現している様だ。

ドラマの様相

人気ドラマの踊る大捜査線で、印象的な名言がある。

主人公の青島俊作が言った「事件は会議室で起きてるんじゃない！現場で起きてるんだ」という言葉。

現場と上層部の隔たりがはつきり伝わる言葉だ。

郵便局でも経営陣と現場が壮絶なせめぎあいが起こっているのだろう。

郵便局の不正余波で、事務次官が辞任した事は、ドラマより劇的な展開であった。

社員に温度差

調査員が直接確認をしている事で、お客様が不適正というなら仕方ないとあきらめる社員がいる一方で、不利益を与える事を

わかって不適正募集をした社員は、自らの非を絶対に認めない。

会社が研修等で指導や推奨した手法を使っただけで、社員自身が処分されるのは、納得できない。会社に責任があるのだから「処分できるものならしてみろ」と腹をくくる社員もいるだろう。

確かに会社の方針通りの仕事をしただけだ。

だから、会社も認め、表彰もした。

実績を出し、これまで会社から表彰されてきた優績者ほど、手の平を返してきた会社を信用しない。

認めれば、保険販売の資格はく奪や社内処分、手当返納と窮地に立たされ、これまでと違い会社は守ってくれない事はわかっている。

今後の予定

- 1月14日(火) 17:00~
第4回呉支部執行委員会
支部事務所

次号は 1月14日 予定

呉局管理者の迷走暴走

① 突然の変更未遂

12月17日、呉局の班ミーティングで社員はあ然とした。

「明日から通配の8時出勤を10時出勤にします」と周知があったからだ。

班長もこれから言うことが理解できないと前置きをした上で発言した。

「……」

誰もが一瞬言葉を失い、次々質問が出た。

・午前指定の配達はどうするのか

・配達時間前に会社(銀行)が閉まり、苦情になる

・17時過ぎると暗くなり配達が困難



【呉郵便局】

・18時45分の勤務終了時間を急に言われても、家庭の事情があつて無理

・なぜ明日から？

など、現場は混乱した。班長も事情がわからず、困惑していた。

各班長や班員が、朝から晩まで部長と対話する異常事態となった。

全員でなく、各班のどれか1区を10時からの配達にし、夕方夜間の荷物配達まで行うという話は、もはや現実的な話でなかった。

減区、減員によって、定時で仕事が終わりにくくなつており、郵便が多いと18時過ぎまで、配達している状況だ。

10時出勤だと、20時過ぎまでの配達する状況になり、その上、荷物等の配達まで仕事は増える。

夜の配達は、暗くて見えない為、更に配達は遅くなる。

また、交通事故の危険や誤配のリスクも増す。

書留や配達証の紛失リスクも増す上、万一の場合に受付局が閉局しているのは電話確認もできない。この提案は、局長が発

端だ。

上司と部下の板挟みになつた部長も被害者。

結局、多くの社員が声を上げた事で、10時出勤の話は無くなった。

実は以前も配達時間を遅らせた事がある。

100円シヨップの懐中電灯と電池が大量に使われたが、社員が配達中に事故して、中止した。

暗くて道が見えなかつた事が事故原因である。社員の安全を考えてない提案だ。

管理者は、夜間の荷物配達を兼配する事で、人件費削減できたモデル局の真似をしたい。

今回の指示は、年休の取得が遅れている対策で、非番週休買取りを減らす事が目的だった。

その為、夜勤を無くし、減員して年休取得する為の発言ではあつたが、現場を混乱させただけで終わった。

局長の風当たりは一集部長に対して、特に厳しい。二集と比べられるからだが、異動など事情が違

比べる事に意味はない。ところが、局長は他の社員がいる前で、感情的に叱責している。

見せしめ的な叱責は、誰が見ても不快に感じる。パワハラに該当するはずで、コンプライアンス責任者である局長はコンプラ意識が欠けている。

部長には人権がないと言わんばかりにパワハラし、うつ病や退職に追い込まれる部長も出ている。

局長にこのような問題があつても、出世したい他の管理者は見えて見ぬふり。共に働き易い会社にする上で、管理者が黙殺しているのだから、改善などできるはずがない。

管理者の指示で、11月の祝日に非番日を入れて、代休を取らせる無駄な祝日非番が勤務表に入った。管理者が支社や会社に対して、有給の取得が出来ている「管理者の面子を保つ」意味でしかない。

小細工を使い、会社への報告を欺く手段を平気で行う。

祝日非番は、代休を取得する必要がある。計画年休取得の本質から外れ、こういった制度の抜け穴を管理者が堂々と使うのだから、呆れる。

それでも、祝日非番にしなればならなかつた理由とは何であろうか。

呉局の1集では、全班長を減区後に一斉異動させた。

これにより、通区や担務の偏りが生じたが、管理者は、この異動は成功だったと会社に報告しなければならぬ。

実際には異動を出しても、担務を埋める事ができず、辞令後も元の班で仕事を続ける人もいた。

班の状況を一番把握する必要のある班長が、自身の通区や配達で、班の状況や調整まで、手が回らない。内示後は、多くの社員が管理者に対して、不安や不満を噴出させた。

それでも、異動を強行。年休取得が遅れる事は、当たり前だ。

事故や業務トラブルまで増えてしまい、後任の部長に全ての負担が押し寄せている。

④ 料金不適正収納

管理者が代引きゆうパックを私金補充した事案が発生した。

配達担当者が、代引きを見落とし、そのままゆうパックをお客様に渡した。

その後、代引きである事に気が付いて、代金回収に向かったが、代金を払って貰えなかつた。

管理者ならきちんと対応

別の管理者は、インフルエンザである事を知りながら、出勤してきた。

インフルエンザは感染する為、出社してはいけない指定感染症所症である。

感染者が増えると業務に支障が出るだけではない。

社員が感染すれば、家族にも広がる。

薬の影響か熱の影響かは定かではないが、インフルエンザが原因で死亡も起きている。

妊娠時であれば、生まれる子供に先天性の障害が出る事もある。

「はとバス」の運転手がインフルエンザの高熱で運転し、死亡事故も発生。

高熱での運転は危険運転そのもので、自身や周囲に危険を与える。自己満足の為に、会社や社員の、業務や健康、安全に配慮すらできない管理者は、迷惑でしかない。

③ 祝日非番の茶番

祝日非番は、代休を取得する必要がある。

計画年休取得の本質から外れ、こういった制度の抜け穴を管理者が堂々と使うのだから、呆れる。

それでも、祝日非番にしなればならなかつた理由とは何であろうか。

別の管理者は、インフルエンザである事を知りながら、出勤してきた。

インフルエンザは感染する為、出社してはいけない指定感染症所症である。

感染者が増えると業務に支障が出るだけではない。

社員が感染すれば、家族にも広がる。

薬の影響か熱の影響かは定かではないが、インフルエンザが原因で死亡も起きている。

妊娠時であれば、生まれる子供に先天性の障害が出る事もある。

「はとバス」の運転手がインフルエンザの高熱で運転し、死亡事故も発生。

⑤ インフルエンザ

別の管理者は、インフルエンザである事を知りながら、出勤してきた。

インフルエンザは感染する為、出社してはいけない指定感染症所症である。

感染者が増えると業務に支障が出るだけではない。

社員が感染すれば、家族にも広がる。

薬の影響か熱の影響かは定かではないが、インフルエンザが原因で死亡も起きている。

妊娠時であれば、生まれる子供に先天性の障害が出る事もある。

「はとバス」の運転手がインフルエンザの高熱で運転し、死亡事故も発生。

高熱での運転は危険運転そのもので、自身や周囲に危険を与える。

自己満足の為に、会社や社員の、業務や健康、安全に配慮すらできない管理者は、迷惑でしかない。